

エレクトロ喫茶の手引き

皆さんは「音楽って何？」って聞かれたらどう答えます？

メロディーがあって
ハーモニーがあって
リズムがあって

そんなところでしょうか。
これは小学校ぐらいで「音楽の三要素」と
習うものです

あるいは

イントロがあって
サビがあって
エンディングがある

あるいは

曲を演奏したり歌ったりするもの
そういうふうに答える人もいますでしょう。

でもでも
世の中には
そんな枠にとられない
様々な音楽が存在しています。

音楽を奏するには
楽譜や音符が読めなければいけない
とか…
楽器を練習して弾けるようにならないといけない
とか…

わたしは音痴だから…
とか…

そんなハードルを設けて
尻込みしちゃう人も居ますが
そんなことは心配無用なのです。

◇◇◇

少し話が逸れますが…

歴史的に有名な有名な曲で
「4分33秒」
という題名の曲があります。

アメリカのジョン・ケージ (1912~1992) という
バッハやベートーベンなどと並ぶ
現代の大作曲家が作曲した曲です。

この曲が初演されたのは1952年のこと。
場所はニューヨーク。
ほんの60年前でした。

この日、ジョン・ケージの新作の初演ということで
国内外から多くの人々がニューヨークに駆けつけました。

コンサートホールには
ステージ上に鍵盤の蓋が開いたままのピアノが置かれていました。
開演時間がきてピアニストが登場し
ピアノの前に座りました。
いよいよ、ジョン・ケージの新作のお披露目です。

すると…
ピアニストはピアノの蓋を
閉じちゃったのです。

客席の誰もが固唾を飲んでドキドキしながら
新作の演奏が始まるのを待っていますが
ピアニストはじっとしたままです。

そして
蓋を閉じてから33秒が経過したときに
ピアニストがやっと動きました。
そうです、
ピアノの蓋を開けました。

観客は「やっと演奏が始まる！！」
新作はどんな曲なのだろう…と
期待しました。

しかし、
なんと、ピアニストは
再びピアノの蓋を閉じてしまい
じっとしたまま動きません。

会場はざわめきます。

2分40秒経過したとき
再び蓋を開けました。

そして暫くして
またもや蓋を閉じます。

もう観客は啞然呆然です。
ざわめきが会場の至る所から沸きあがり
ブーイングや怒鳴りだす人まで出てきました。

1分20秒経過したとき
再び蓋を開けました。
そしてピアニストは静かに立ち上がり
そのままステージを後にしました。

この前代未聞のコンサートは
歴史的な大事件となりました。

このときにピアノの蓋を閉めた時間の合計が「4分33秒」だったので
この曲は「4分33秒」という名で呼ばれるようになりました。

実はこの「4分33秒」こそがジョン・ケージが作曲した3つの楽章からなる新作だったのです。

そう、
会場のざわめき、
ブーイング
怒鳴り声、
自分の呼吸や唾を飲む音、
それらの音の全てが
ジョン・ケージが新作で創りだした「音楽」だったのです。

◇◇◇

ちょっとここで
10秒ほど目を閉じて
耳を澄ませて身の回りの音に注意を向けてみて下さい。
どんな音が聞こえますか？

ほら、
時計の針の音
冷蔵庫の音
水の音
車の音
風の音
いろんな音が鳴っていますよね。

私たちが
意識を向ける
それよりも前から
そこにずっと鳴っていた
音たちです。

この世の中には
変化に飛んだ音が満ち溢れています。
そして音楽は時間の経過とともにある「時間芸術」です。
身の回りに溢れるそれらの音に能動的に意識を向けた瞬間から
その環境に流れる音楽が始まり
そこから意識を逸らした瞬間に
その音楽は止まるのです。

◇◇◇

冒頭に書きましたが
私たちは
音楽とは
メロディーがあって
ハーモニーがあって
リズムがあるもの

そうしたものを音楽だと学校で習ってきました。
もちろん、それらも音楽です。
そうした中には素晴らしい音楽が沢山ありますし、
大きな感動を与えてくれます。

でも、音楽表現は
もっともっと自由なものでもあります。

私たちは
いつからか「音楽」と「音楽でないもの」を
分類しちゃっていたりします。

そんな既成観念なんか
いまここで捨てちゃいましょう。

今回のイベント「エレクトロ喫茶」には
関西や全国で活躍されている
音楽家の方たちを招きました。

「自由に音を奏でてライブをして下さい」

とだけ伝えています。

さて

どんな音楽が飛び出すのでしょうか。

それは、メロディーやハーモニーのある音楽かもしれません。

あるいは、沈黙と雑音が織り成す音楽かもしれません。

少しばかり

耳を澄ませて

そんな音楽を感じ取ってみませんか。

出演者詳細

Unyo303

沢山のケーブルとツマミから構成される電子楽器、「モジュラーシンセサイザー」を使い、五線譜や従来の音符・音階から遠く離れた音の世界を、即興的に奏でるパフォーマンスで活動している。

電気が織り成すプラスとマイナスの間を揺れ動く様が、そのまま音として飛び出す世界は、キテレツさの中に素朴さが漂う。

<http://www.unyo303.com/>

西田 彩

音楽家・デザイナー・写真家

ソロとして主にギター+DSPやFMシンセを使用した即興演奏で関西を中心に活動中。

また、以下のバンドやユニットに参加し、クラブ、ライブハウスからギャラリーや美術館などで演奏活動を行う。

・ o-setsu-y

・ ipso facto (船田奇岑+Rakasu Project.+Saya Nishida)

・ Envelope77 (Unyo303 + Saya Nishida)

・ gypsy curiosa (Shigeki Nishikawa + Saya Nishida)

その他、各地のアーティストとのコラボレーションを多数行っている。

2012年「エレクトロ喫茶」をオーガナイズ。

2013年より京都精華大学ポピュラーカルチャー学部音楽コース非常勤講師

山田 訓久

幼少より油絵とピアノを始める。影響を受けた最初の音楽はバッハ。その後、クラシックのピアノを弾きながらピアノでの作曲を始める。現在は感じたことを音で記せたらという思いで音日記をしています。

Real name: Toshihisa Yamada He began oil painting and playing the piano in his childhood.

Bach was the very first influence to his music. Later he began composition with his piano playing and now he keeps "sound diaries" wishing to describe what he feels.

平本 正宏

作曲家・演奏家/Tekna TOKYO 主宰

1983年 東京生まれ

2006年 東京藝術大学音楽学部卒業

2008年 東京藝術大学大学院音響研究科修了

多種多様な電子音響、ノイズを素材とした音楽活動を展開する。

2006年より写真家篠山紀信が制作する映像作品digi+KISHINの音楽を担当。

digi+KISHIN DVD「クライハダカ」、「月船さらら」他、シネマライズでの篠山紀信とのコラボレーション・コンサートも行った。また、ダンスカンパニーNoism主宰の金森穰によるダンス作品やスターダンサーズ・バレエ団の春公演、映画監督天願大介の演出・脚本による演劇作品など、多くの舞台作品に音楽を提供している。

2004年に音楽を担当したNoism「SHIKAKU」は舞台、音楽共に絶賛され伝説の作品となっている。

2010年、トーキョーワンダーサイト本郷で開催されたExperimental Sound, Art & Performance

Festival 2009に入選し、「TOKYO nude」(movement)を発表、高い評価を得る。

2011年、レーベルTekna TOKYOを立ち上げ、4月27日ファーストアルバム「TOKYO nude」(TT001)をリリース。今後も精力的なリリースを予定している。

2006年、早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科において3回にわたり「空間と音楽」と題した講義を行う。現在、digi+KISHIN最新作のサウンドトラックを作曲中。